タウンニュース®

横浜デジタル版

2025年（令和7年）
12月4日㈭号

■発　行：株式会社タウンニュース社　横浜中央支社　https://www.townnews.co.jp
■編集室：〒231-0033 横浜市中区長者町 2-5-14 セントラルビル 2F　TEL：045-227-5050（代）FAX：045-227-5051

発行責任者：宇山 知成
支　社　長：北原 健祐
編　集　長：門馬 康二

タウンニュース® 横浜デジタル版

タウンニュース横浜デジタル版は、自治会町内会や地域活動などに関する情報を月1回程度お届けします。皆さまの活動に役立つような話題を提供していきます。

■横浜デジタル版は自治会町内会や地域活動などに関する情報をお届けします

横浜市のサイト　地域活動情報を集約

団体が発信「よこむすび」

横浜市は地域活動団体のイベントやボランティア募集情報を集めたポータルサイト「よこむすび」の運用を今年度から一部の区で始めた。4月に青葉区、都筑区で開始し、10月から瀬谷区が加わった。来年度中には全18区に拡充させる予定で、減少傾向が続く自治会町内会の加入率増加や高齢化などで活動が縮小しつつある団体の支援につなげていく意向だ。

3区で先行、来年度中に全区へ

地域コミュニティーの希薄化が社会課題となる中、市内の自治会町内会加入率は今年4月時点で約65％と10年前から約10ポイント減少している。地域関係のボランティア団体もメンバーの高齢化が進み、新たな仲間を増やせず、活動縮小を余儀なくされているケースも少なくない。

市は団体を支えながら、地域や地域活動に目を向ける人を増やそうと、情報を集めたサイト「よこむすび」を4月に開設した。サイトでは、事前に登録した自治会町内会や地区社会福祉協議会、区民活動支援センターの登録団体など、市民公益活動を行う団体が、自らイベントやボランティア募集に関する情報を発信できる。団体から発信できるため、市の確認を通さず、リアルタイムに伝えられる。

11月末までに青葉区、都筑区、瀬谷区の約120団体が登録。歴史研究を行う団体の講座参加者や地域美化に取り組む団体が定期的に行う清掃活動のボランティアを募る投稿などがある。ほかに、活動レポートも掲載されている。

地域活動団体が情報を発信できる「よこむすび」

掲載で「参加者増えた」

市市民局が行ったアンケートでは、イベントを掲載した団体から「これまでに比べて参加者が増えた」、「市が運営しているサイトなので、信頼感がある」などの感想が出ているという。ただ、未登録の団体からは「メンバーがネットに不慣れ」との理由で登録に踏み切れないところもあり、市は登録・操作説明会を行うなどして参加しやすい環境づくりを進める。

市市民局は「これまで、介護や子育てなどに特化した情報発信サイトはあったが、地域活動全般にわたるものはなかった」と話し、「よこむすび」が幅広い層に訴求できる可能性を持っているとする。さらに、今後は学生などの若い世代にサイトの存在を知ってもらう取り組みを進め、活動の場を求めている人に応えていく方針だ。2026年度の早い段階で全区で実施できるように準備を進めており、「市民活動の活性化につなげたい」としている。

「よこむすび」に関する問い合わせ同局☎045・671・4734。

鶴見区 東寺尾中部会
ジオラマで70年前を再現
結成時の様子、会員制作

ジオラマと中心になって制作を主導した米谷さん

鶴見区の町内会「東寺尾中部会」が結成70周年を機に、結成当時のまち並みを再現したジオラマを制作した。当時の資料も少ない中で同町内会の米谷栄一さんが中心となり、長年住む住民の声などを基に作っていった。

結成70周年を機に「何か記念になることはできないか」とジオラマ作りの話が上がったのは9月ごろ。11月の町内会の祭りで披露しようと、急ピッチで制作が始まった。制作は主に、美術に精通している町内会会員の米谷さんが担当した。

ジオラマは縦約50㎝×横約95㎝の大きさで、現在の東寺尾交番から東台小学校周辺の範囲を100分の1スケールで再現。当時「共栄会」と呼ばれていた商店街の風景も蘇っている。

住民の記憶頼りに

しかし、制作が始まり、当時の写真や資料を集めようと図書館などを訪ねてもなかなか見つからなかった。そこで頼りになったのが、当時を知る住民の「記憶」だった。会員が当時の地図を片手に一軒ずつ訪ねて聞き取り。「ここの家は板塀だった」「軒先には猫がいて、荷物が積み上がっていた」など、細かい情報を得られたほか、今はない寿司店や染め物をしていた小屋などの話も集めることができた。

家屋などの材質は発泡プラスチックや粘土などを使い、一軒一軒の屋根や電柱も手作り。3Dプリンターも駆使して、細部まで再現した。まちの色合いも当時の記憶を基に鮮やかに表現。米谷さんは「実際は灰色の屋根が多かったと言われているが、カラフルな方が見て楽しめる」という。

細部まで作り込まれている

11月には、町内会の祭りでジオラマが披露された。住民たちが興味津々に覗き込み、ジオラマの中の猫を探すゲームが行われたり、子どもたちは木に柿や柚子の模型を付けて楽しんでいた。米谷さんは「これで完成ではなく、今後も更新していきたいので、昔のまちの風景を覚えている人はぜひ情報を寄せてほしい」と呼びかけている。

防災拠点訓練にドローン
保土ケ谷区　水素カー展示も

保土ケ谷区の初音が丘小学校で11月16日、地域防災拠点訓練が行われ、新たな取り組みとしてドローン飛行や水素カーの展示、防犯に関する講話が盛り込まれた。

訓練は、11月16日の午前6時頃、マグニチュード7・5（推定震度7）の大規模地震が発生した想定で実施され、約230人が参加した。

トイレの設置訓練など、従来の内容に加え、ドローンを上空30ｍへ飛行させ、搭載されたカメラで屋上プール付近の様子を地上のモニターに映し出す試みを初めて実施。トヨタの燃料電池自動車「クラウンFCEV」も登場し、電気自動車で最大5日間、電気が使用可能であることが紹介され、電気ケトルや扇風機などが展示された。

ドローンを飛行させる様子

震災に便乗した悪質な犯罪に対処するため、保土ケ谷警察署員による講話もあった。避難所の防犯対策として▽貴重品を置いたままにせず、できる限り携行する▽車内に貴重品を置いたままにしない▽1人での行動を避け、大人は子どもを見守る――などを参加者に注意喚起した。

同委員会の渡邉啓一運営委員長は「共助という意味で日頃の活動で顔を合わせることで築かれるつながりが非常に大切」と参加者へ呼びかけた。

グリーン電源でイベント
港北区・師岡　アニメ上映など

映像に見入る参加者

会場の全ての電力を太陽光で蓄電した〝グリーン電源〟を使ってアニメ上映会などを行う企画が11月1日、港北区師岡町の梅の丘公園であった。

イベントは「星降る夜の幻燈会」と銘打ち、師岡連合町内会と横浜植木株式会社、熊野の森もろおかスタイルの共催。グリーン電源を使用したプロジェクターで師岡地区の歴史説明やアニメ上映などを行い、多くの地域住民が聞き入っていた。

5歳の息子と参加した師岡町の30代の女性は「知らないと通り過ぎてしまう師岡のことを知れていい機会になった」と感想を話した。

終盤には公園名の由来でありながら、ウイルス感染で伐採されてしまった梅の木の再生に向けたプロジェクトを発表。来年2月には梅の植樹祭を実施し、子どもたちが自ら植えた梅を通じて、緑と地域への愛着を育むことを目指すという。イベントを取り仕切った熊野の森もろおかスタイルの肥後貴美子さんは「幻燈会は5年ぶり。継続することで師岡を盛り上げられたら」と話した。

鶴見区 小野町
子どもがマンホール調査
防災マップ更新でまち探検

鶴見区小野町の子どもたちが地域で消火栓のマンホールを探す、「マンホール調査隊」の活動がこのほど行われた。

小野町自治会（福田稔会長）と同町子供育成会、自治会女性部が協力して行ったもの。

福田会長によると、「自治会で独自の防災マップを作っているが、前回の作成から約8年が経ち、その間に新たな宅地造成や建物の名称が変わったりした」という。また、この8年間で鶴見工業高校の跡地に横浜鶴見リハビリテーション病院などが建ち、AEDを備えている施設も増えた。さらに、地域の子どもたちが「消火栓」と記された黄色いマンホールに興味を持ったことをきっかけに、子どもたちにも協力してもらいながら防災マップを更新しようと動き出した。

揃いの自治会Tシャツを着てマンホールを探す子どもたち

活動当日は約30人が参加。グループに分かれ、白地図を片手に消火栓のマンホールやAEDの設置個所などを探索。「見つけた」とあちこちで子どもたちの歓声があがり、大人も楽しみながら地図に記載していった。

最終的に約50カ所の消火栓のマンホールなどが見つかった。今後は正式な地図を作成し、自治会員や地域で配布するという。福田会長は「子どもたちと一緒に防災について考えるきっかけにできて良かった。新しい情報を盛り込んだ防災マップの完成が楽しみ」と笑顔で語った。

ペット避難ゲームで訓練
都筑区で初開催

避難所運営を話し合う参加者

都筑区の中川西町内会が11月15日、中川西中学校で都筑区初の「横浜市ペット防災HUG（避難所運営）ゲーム」を開催した。

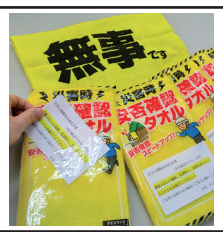
ゲームは、避難所で起こる状況や適切な対応を学ぶことを目的に開発されたシミュレーション型の訓練。約20人が参加し、「都筑ペット防災を考える会」の今出敬太郎さんの監修で行われた。

都筑区で最大震度6弱の地震が発生し、参加者が避難所（中川西中）の運営委員からペット同行避難者への対応を任されたことを想定。避難者の生活拠点やペットの一時飼育場所の選定、起こりうる問題ついて、対応策を話し合った。

参加した男性は「子どもも大人も一緒に考え、意見を述べることができた」と話した。今出さんは「ペットは家族。災害時を想定し、防災拠点への経路に危険がないかを確認してもらいたい」と参加者に伝えていた。

自治会町内会向けの防犯・防災グッズを製作

防災ボトル



安否確認タオル

タウンニュース社では、自治会町内会向けにさまざまなグッズの製作を行っています。人気は「防災ボトル」。災害発災時に役立つホイッスルやＬＥＤライトなど6点がボトルにまとまっています。ほかにも、玄関先に掲示して周辺の住民に無事を知らせる「安否確認タオル」やドアや窓に貼れる「防犯ステッカー」などを揃えています。いずれも、町内会名を入れられます。地域の担当者が迅速・丁寧に対応するサービスの良さも好評です。問い合わせはタウンニュース社営業推進部☎045-913-4141。

防犯ステッカー

Ｔシャツなども